

面

三年

【画数】
筆順
一 ㇀ 二 ㇀ 三 ㇀ 四 ㇀ 五 ㇀ 六 ㇀ 七 ㇀ 八 ㇀ 九 ㇀ 十 ㇀

一 ㇀ 二 ㇀ 三 ㇀ 四 ㇀ 五 ㇀ 六 ㇀ 七 ㇀ 八 ㇀ 九 ㇀ 十 ㇀

おも・おもて・つら

成り立ち



鼻(年404)の形をあらわした「自(年153)」を中にして、それをとりかこむ顔のりんかくのせんをくわえて作った字で、「かお」のことをあらわした字です。

「顔」とまったく同じいみの字で、「顔面」ということばもありますが、「上面」というように、顔にかぎらず、「ものの上」のいみにもつかわれます。【例】地面(土地の表面)、月面、画面、全面。

「顔」のことを、古いことばでは、「おも(て)」、「つら」ともいいます。【例】面長、面つき、面汚し。

同じいみでも、「かお」というときは「顔」という字をつかい、「おも(て)」、「つら」のときは「面」をつかうようにくまっています。

使い方

▽せつぶんの日に弟はおおにの面を作ってぼくにかぶらせ、「おには外」といってぼくにまめをぶつけました。
▽テレビの画面に、あればた月面のようすが写し出されました。

熟語例

▽お面(顔面につけるもの。ほんとの顔でないということから、今では「仮面」ということが多くなりました。仮(年666))
▽画面(絵画の表面。「絵の中」といういみです。テレビや映画では「映し出されたもの」をいいます。)
▽月面(月の表面)
▽表面(表(年407)。ものの「上」のことです。ものには「両面」があり、その「主」な面を「おもて」というのです。)
▽面談(顔を合わせて話し合うこと。)
▽面目(世間にたいする顔、といういみのことばで、「名誉」をいみます。また、「体裁」のいみにもつかいます。【例】面目を一新する。「面もく」とも読みます。)

問

三年

【画数】
筆順
一 ㇀ 二 ㇀ 三 ㇀ 四 ㇀ 五 ㇀ 六 ㇀ 七 ㇀ 八 ㇀ 九 ㇀ 十 ㇀

一 ㇀ 二 ㇀ 三 ㇀ 四 ㇀ 五 ㇀ 六 ㇀ 七 ㇀ 八 ㇀ 九 ㇀ 十 ㇀

とIIIIII・とん

成り立ち



「門」と「口」とを組み合わせて作った字です。門のあいだから、訪問したことを「告げる」ことをあらわした字です。「訪れ問う」こと。

人の家をはじめ訪れるときには、尋ね尋ね行くので「訪れる」ことを「訪ねる」ともいいます。それで、問は「訪問」の「問」から「尋問」や「質問」の「問」というつかい方をするようになりました。

「問」の音モンは呉音である。漢音はブンである。問に対する字は「聞」である。口で問うのに対して耳でそれを聞くことである。聞も問と同じく、古くはモンと呉音で発音されたが、聞は「新聞」など、漢音のブンが用いられている。

使い方

▽歩けないでねたきりの人たちの慰問に、老人ホームを訪問しました。
▽こんどのしけんの問題は、難問が多くて、たしかにできたと思えるものは十問中五問だけで、あとはまったく疑問です。もっとよく質問しておけばよかったです。いきました。

熟語例

▽慰問(慰めるための訪問。お見まい)
▽訪問(人の家を訪れること。)
▽問題(「質問の題(年365)」。なにを答えるかをしめす文のことです。)
▽難問(「難しい問題」。答え難い問題)
▽十問(十この問題。問題は「一問・二問」と数えます。)
▽疑問(「疑わしい問題」。よくわからない問題のことです。また、「疑わしいこと」の質問)
▽質問(質(年736)は「ただし明らかにすること。わからないことを問いただしてわかるようにすることです。)